

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	12-328	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Post-treatment stage of change predicts 12-month outcome of treatment for alcohol problems. 治療後のステージの変化はアルコール問題の治療 12 カ月後の治療の結果を予測する		
執筆者		
Heather N, McCambridge J;		
掲載誌		
Alcohol Alcohol. 2013 May-Jun;48(3):329-36. doi:		
キーワード		
要 旨		
目的： アルコール関連問題のために治療後のアウトカムとクライアントの自己申告による『変化のステージ』の関係を評価する。		
方法 『英国 Alcohol Treatment Trial』からデータを使用して、少なくとも 1 セッションの治療を受け、完全なデータ (n = 392) がえられたクライアントを分析の対象とした。飲酒行動 (断酒の日の% (PDA) と一日当りのドリンク数 (DDD)) の 2 つの連続計測と 12 カ月追跡調査の明確なアウトカムが、アクション前ステージとアクションステージのクライアントで治療前または治療後評価において比較された。多重ロジスティック回帰分析により、変化のステージと治療転帰の関係を調べた。そして、可能性のある交絡因子をコントロールすることによってこれらの関係の強さを評価した。		
結果 治療前の変化のステージはアウトカムを予測しなかった、しかし、治療後の変化のステージは 12 カ月追跡調査での PDA と DDD を予測した。 調整していない分析法、および調整した分析法では、治療後にアクションのステージにあるクライアントは、アクション前のステージのクライアントより 2~3 倍良好な結果 (さまざまに定義される) を示した。Motivational Enhancement Therapy (動機づけ療法) をうけたクライアントと Social Behaviour と NetworkTherapy を投与された人々の間には、治療前から後にアクションを維持したり、アクションに進む割合で差はみられなかった。		
結論： これらの所見は、動機の変数が治療の結果を予測するという以前の報告を追認したが、そのような関係が治療後の変化のステージについてみられることが新たにわかった。セラピストのために、クライアントの変化のステージをモニターすることは重要であるようで-良好な臨床実践でそれは非公式にしばしば起こる-、それが治療の全体を通じて起こる変化することに対して動機付けが低いことに対処するための戦略である。以上の所見は、アルコール関連問題のために有効な治療についての『共通因子』見込みとも整合している。		